



2年の軌跡

昨年の春に設立し、八幡平市から「J」の舞台を目指すアンソメット。同チームの高橋義利代表にこれまでの2年間を振り返るとともに、来シーズンに向けての抱負などについて聞いた。



アンソメット
岩手八幡平 代表
高橋義利

Takahashi Yoshitoshi

平成17年2月からいこの村岩手代表取締役。21年3月よりアンソメット岩手八幡平代表。68歳。柏台在住。

八幡平市に本拠地を置き、八幡平市のクラブチームとして、市民に愛され、地域に根差した持続する運営で、「J」の舞台を目指すチーム作りをしたい。有限会社

タカ・コーポレーション代表取締役である高橋代表はアンソメット岩手八幡平を結成した理由についてこう語った。高橋代表は、この2年間で、2つの敗戦がチー

INTERVIEW

敗戦から得たチーム作り 着実に力を付けていきたい

ムを変えたという。1つは、アンソメットの公式戦初戦、昨年5月10日の県サッカー選手権大会1回戦、対盛岡中央高校戦（PK戦の未敗退）。もう1つは、今年と同大会準々決勝対FCガンジュ岩手戦（1-3で敗戦）。どちらも寄せ集めた選手の個々の力ではなく、チームプレーの重要性が明らかになった敗戦だった。特に今年の敗戦後、選手は目の色を変えて練習に励み、試合を重ねるごとに一体感を強めたことで、全国の頂点まで上り詰めたと確信する。スポーツの世界、選手の入替わりはある。しかし、同じような敗戦を繰り返さないために、来シーズンに向けて「選手の入替わりを少なくし、焦らずに成熟度を上げていきたい」と語る高橋代表。全国クラブチーム選手権大会連覇はもちろんだが、県サッカー選手権大会で1つでも多く勝利することを目標に挙げた。

■アンソメット岩手八幡平2010シーズン公式戦成績

<p>①県サッカー選手権大会(天皇杯県予選)</p> <p>1回戦 対平泉クラブ ○6-1</p> <p>2回戦 対岩手銀行サッカー部 ○13-0</p> <p>3回戦 対大槌高校 ○6-0</p> <p>4回戦 対FC紫波 ○11-1</p> <p>5回戦 対富士クラブ2003 ○4-2 (延長)</p> <p>準々決勝 対FCガンジュ岩手 ●1-3</p>	<p>②県社会人サッカーリーグ(4部)</p> <p>5/9 対前沢クラブ(H) ○15-0</p> <p>5/23 対石鳥谷FC(A) ○10-0</p> <p>8/8 対FCパラダイス(A) ○8-0</p> <p>8/15 対葛巻クラブ(A) ○9-0</p> <p>9/5 対前沢クラブ(A) ○14-0</p> <p>10/3 対岩手教員団(H) ○9-0</p> <p>10/3 対葛巻クラブ(H) ○13-0</p> <p>10/10 対岩手教員団(A) ○8-0</p> <p>10/17 対FCパラダイス(H) ○15-0</p> <p>10/24 対石鳥谷FC(H) ○18-0</p> <p>通算 10勝0分0敗 勝点30 得失点差+119</p>	<p>④全国クラブチームサッカー選手権大会</p> <p>▶県大会</p> <p>準決勝 対IATE・TODOS ○不戦勝</p> <p>決勝 対磐井FC ○4-0</p> <p>県第1代表で東北予選へ</p> <p>▶東北予選会(山形県天童市)</p> <p>準々決勝 対ラスティング郡山 ○12-0</p> <p>代表決定戦 対びらフランチ米沢 ○3-0 (延長)</p> <p>東北第1代表で同選手権大会へ</p> <p>※全国大会は、6、7参照</p>
---	---	--



最強の16人

発足2年目で初の全国制覇を果たしたアンソメット。試合を重ねるごとにチーム全体のプレーには一体感が生まれていきました。ここでは、栄光を勝ち取った選手たちを紹介します(大会登録メンバーのみ。背番号は大会時のもの)。

 5 松本晋也	 4 寺石勇斗	 1 矢部憲一	 2 丸山富洋
 10 藤井貴	 9 イ・ファソプ	 8 シム・キュワン	 6 リカルド・ベルメーリョ
 17 玉那覇翔太	 16 千葉龍弥	 14 山口将造	 11 西田健吾
 23 森金大貴	 22 久保篤史	 20 一ノ渡靖彦	 19 堀一輝

INTERVIEW 私たちはアンソメットを応援します



中村 まき子 さん
なかむら・まきこ 北村

地元で行われる試合はもちろん、東北予選会ときは山形まで応援に行きました。来年も1試合でも多く勝ち、上のステージを目指してほしいです。



工藤 祐子 さん
くどう・ゆうこ 高宮

地域密着のチームの活躍は私たちに元気を与えてくれます。今回の優勝をきっかけに、サポーターが増えて、市民みんなで盛り上げていきたいですね。



田村 祐貴 さん
たむら・ゆうき 西根中2年

アンソメットの選手の皆様には、サッカー部の練習を指導してもらっていて、あこがれの存在です。Jリーグの舞台に行くまで応援していきます。

取材を終えて

今回の優勝でアンソメットは、「J」と名の付く舞台へという高い目標へのスタートラインに立った。これから上のステージに上るにつれて、選手の入替わりは当然あるはず。しかし変わらないものがある。それはサポーターの存在。サポーターの支えがチームを強くする。チームが強くなればサポーターも増えていく。互いに成長する姿はこれからのまちづくりにつながるはずだ。

特集 八幡平からの挑戦 終

(参考資料) Jリーグ公式サイト：百年構想



11月8日にいこいの村で開かれた全国大会優勝祝賀会。市民など多くの人たちが参加し、選手たちの奮闘をねぎらった

スポーツは人を元気にする
そしてまちを一つにする

スポーツといえば、体を鍛えたり、試合の結果を求められたりするイメージが強いと思う。

しかし、オリンピックやWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）、今年開催されたサッカーワールドカップなどで日本選手などが躍動する姿を見て、歓声を上げたり、涙した人は少なくないのではないだろうか。スポーツは人に感動や勇気を与え、元気にする力があると言える。スポーツへの触れ方は、「する」「見

る」「支える」などそれぞれであるが、そこから「つながる」ことはたくさんある。

今回の全国クラブチームサッカー選手権大会優勝は、多くの市民に夢と希望を与えてくれた。実際、全国大会優勝祝賀会には、多くの人が集まり、選手らを祝福した。これからは八幡平を熱くし、市民を元気にしてくれる。八幡平市のクラブチームとしてアンソメットの挑戦は、始まったばかりに過ぎない。市民一人一人がアンソメットに誇りを持ち、サポーターとして盛り上げていくことは、まち全体が一つの大きな夢をかなえることに違いない。



東北予選会以降、選手の中には「I♡八幡平」と書いたTシャツをユニフォームの中に着ていた選手も。地域への思いは選手も同じだ



ともに歩む

八幡平市を拠点に、地域・市民とともに歩む八幡平市のクラブチームとして、「J」と名の付く舞台を目指すアンソメット。アンソメットの取り組みが八幡平市にもたらすものは、

「J」の舞台を目指した挑戦
駆け上がり始めたばかり

全国クラブチームサッカー選手権大会を制したアンソメットであるが、今シーズンは県社会人リーグ4部に所属するが、図1のとおり、目標である「J」と名の付く舞台を目指す場合、一つ一つ階段を上るその道のりは長いことが分かる。しかも、東北社会人リーグ1部からJFLへ昇格するために開催される「全国地域リーグ決勝大会」は1番の難関と言われ、これまで岩手県のチームが突破した例はない。

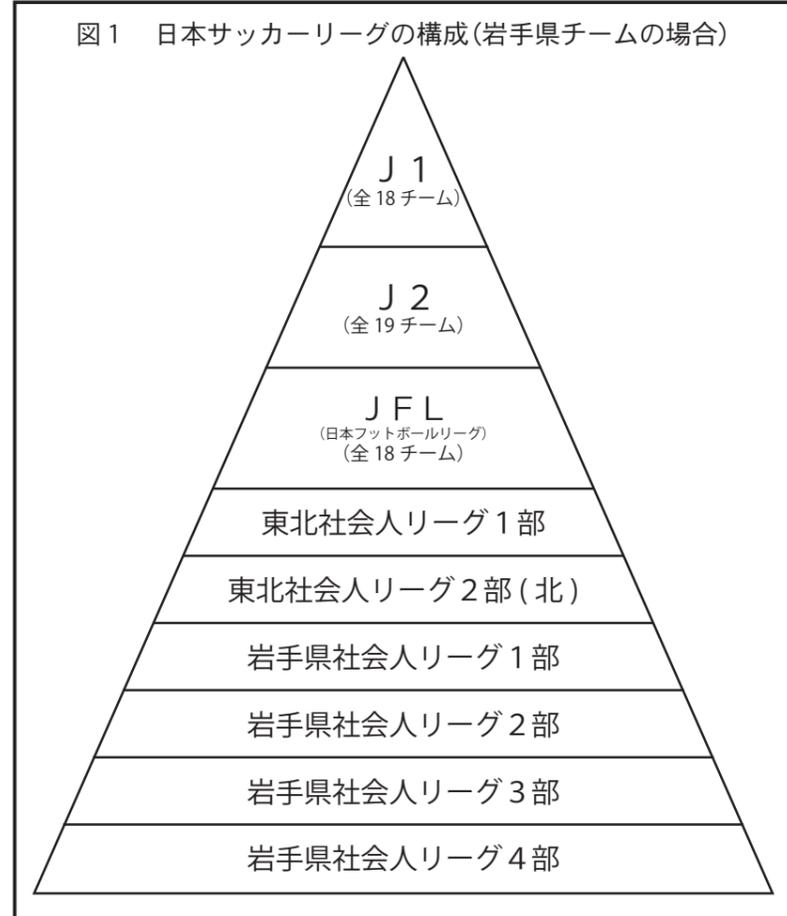
また、「J」と名の付く舞台を目指すには、サッカーが強いだけでは上にはいけない。実力以外にもハードルがある。例えば、上位リーグに上がるほど、活動エリアは広がり、リーグ加盟料や遠征費などの経費も多くなる。その資金の確保もしていかなければならない。

平成5年(1993年)に10クラブでスタートしたJリーグ。現在は37クラブまで増えた。Jリーグは「Jリーグ百年構想」スポーツで、もっと、幸せな国へ」をスローガンに、スポーツ文化の振興活動に取り組んでいる。地域で暮らす人たちが健康で笑顔あふれる暮らしを送れるような環境を「地域に根差したスポーツクラブ」を核として創り上げていこうというもので、「J」の舞台を目指していくのであれば、地域に密着した活動を重視し、着実に努力していく姿勢が求められている。

地域に根差した積極的活動
市民などとの交流深める

アンソメットは、「サッカーで地域に笑顔と活力を」をキャッチフレーズに掲げている。

地域に根を下ろした活動の一環として力を入れているのがサッカー指導。県サッカー協会のキッズ巡回指導への取り組みや市内中学生への指導を行っている。9月から10月まではチームの



サッカースクールを開校した。指導を通じて地域の子どもたちへサッカーの楽しさはもちろん、団体行動やマナー、協調性などを伝え、子どもたちの夢の実現をサポートしている。

また、八幡平山賊まつりではステージイベントに参加したり、今回優勝した全国クラブチーム選手権大会、同大会東北予選会の応援ツアーを企画したりするなど、市民をはじめとするサポーターとの交流を大切にしている。